

JWDA / 4部合同 関西視察ツアー 1日目 報告書

一般社団法人日本ウッドデザイン協会事務局



【目的】

内 容: 奈良県内(奈良市・宇陀市・桜井市)および大阪・関西万博の木造・木質建築物等
視察

日 程: 2025年9月25日(木)～26日(金)

視 察 先:

奈良県奈良市: 大和ハウスグループ みらい価値共創センター コトクリエ

奈良県宇陀市: 森庄銘木産業株式会社、西井木材

奈良県桜井市: 奈良県銘木協同組合、桜井木材市場

大阪府大阪市: 大阪・関西万博(大屋根リング、静けさの森、住友館、日本館、三菱未来館、
JWDA展示 他)

参 加 者: 39名

企 画 運 営: 日本ウッドデザイン協会事務局(ウッドデザイン賞部会)

【目的】

- ①我が国の木の利活用に関して川上から川下に至る距離感が課題とされている中、林業の現場から製材・流通の過程を経て木造建築までを一日で体感する。
- ②協会(林野庁委託事業)出展があり、大屋根リングをはじめ木造・木質化された建物も多い大阪・関西万博で木を利用した建築に関する知見を深める。
- ③協会員相互のコミュニケーション、また奈良県内の林産業関係者とのコミュニケーションなどを通じ、地域も巻き込みながら協会員のビジネス機会創出を目指す。

【スケジュール】

9月25日(木)

08:55 大阪府「JR新大阪駅」駅レンタカー新大阪営業所前 現地集合

10:10 近鉄「奈良駅」1番出口 現地集合

11:00 視察①大和ハウスグループ みらい価値共創センター コトクリエ(木造建築)

昼食(~11:30)

視察(~12:30)

13:30 視察②森庄銘木産業株式会社(林業・銘木・木工)視察(~15:00)

15:10 視察③西井木材(製材所)視察(~15:30)

16:00 視察④奈良県銘木協同組合(製品市場)及び桜井木材市場(原木市場)(~17:00)

18:30 SARASA HOTEL 新大阪 到着

19:00 ホテルマイステイズ新大阪コンファレンスセンターにて懇親会(~21:00)

SARASA HOTEL 新大阪 宿泊

9月26日(金)

06:00~ ホテルにて各自朝食

07:10 ホテル発

07:55 大阪関西万博 貸切バス降車場 到着

09:00 西ゲートから入場

09:50 視察⑤静けさの森(~10:20)

10:30 視察⑥大屋根リング(~11:15)

11:30 視察⑦住友館(~12:00)

12:00 視察⑧日本館(~12:30)

12:40 各自ご昼食(~13:30)

14:00 視察⑨三菱未来館(~15:00)

※三菱未来館終了後、解散

FUTURE LIFE VILLAGEにて開催しているJWDA展示(林野庁主催)を自由見学

【視察先】視察1日目 9月25日(木)

1. [大和ハウスグループ みらい価値共創センター “コトクリエ”](#)



吉野杉など県産木材をふんだんに使用し、まるで森林の中にいるように感じる「太陽のホール」

[日本ウッドデザイン協会 ウッドデザイン賞 ソーシャルデザイン部門 \(2021\)](#)

所在地: 奈良県奈良市西九条町4丁目1-1

規模: 地上4階、延床面積 17,048.07㎡

構造: 鉄骨造(内装・共用空間を中心に木質化を積極的に採用)

建築主: 大和ハウス工業株式会社

基本計画・全体監修: 小堀哲夫建築設計事務所

設計・施工: 大和ハウス工業株式会社・株式会社フジタ

開所: 2021年10月1日

内容: 施設見学、木造・木質化建築の説明、昼食

レポート: 創業者・石橋信夫の生誕地である「吉野の森」の豊かな生態系をイメージした「森の会所」をコンセプトに、木造・木質化を軸とした設計が特徴。

吹抜けから光が降り注ぐ「太陽のホール」は、木材仕上げによる温かな雰囲気と柔らかな音環境を実現。創業者の言葉「21世紀は風と太陽と水を事業化すべき」を体現し、「風のパティオ」「太陽のホール」「水のサロン」の3つのゾーンで構成。

地域材を積極的に活用し、室町時代の「会所」(身分を超えて人々が集い議論した場)の精神を現代に継承。波打つような有機的な曲線デザインと木質空間が一体となり、立場や世代を超えて共に学び、新しい価値を共創する場として設計。

グループ社員の研修のみならず、地域住民、異業種企業、研究機関など、多様なステークホルダーとの「共育・共創・共生」の拠点として、木の温もりと柔らかな音響特性を活かした空間づくり

が評価されている。

創業の地への思いとリスペクトを感じる建物で、参加者から「大和ハウスに就職すればよかった！」と声が挙がるほど、素晴らしい環境を体感。

木材仕上げによる温かな雰囲気と柔らかな音環境は、研修施設における木質化の効果を如実に示しており、立場や世代を超えて語り合う「森の会所」というコンセプトが空間デザインに見事に落とし込まれていた。

地域材を積極的に活用しながら、企業の人財育成施設としてだけでなく、地域住民や異業種企業にも開かれた「共育・共創・共生」の場として機能している点は、木造・木質化建築の新たな可能性を示すモデルケースといえる。

木の持つ心理的効果や音響特性を活かした空間づくりは、研修や学びの場における木材利用の有効性を実証しており、今後の教育施設や企業研修施設の木質化推進において、大いに参考になる事例であると感じた。



2. 森庄銘木産業株式会社(林業・銘木・木工)



左右で山主の違う吉野の森

会社概要:

奈良県宇陀市に位置し、吉野林業地域の玄関口として、長伐期林業を実践する山林経営から銘木・家具材の加工までを一貫して手掛ける企業。伐採・搬出・選木から、磨きや木工に至るまでの一連の工程を自社で管理し、吉野材の価値を最大限に引き出す取り組みを展開。森林資源を地域の価値に転換する「森と暮らしの入り口」として、林業の現場から製品加工までを体感できる

内容:

森林現場視察(山林での伐採・搬出現場、選木作業の見学)、自社工場見学(銘木・家具材の加工工程、磨き・木工技術の実演)

レポート:

奈良市内から車で1時間ほど、銘木の名産地・吉野へ。吉野林業地域の玄関口である宇陀市に位置する森庄銘木産業株式会社では、「川上」の現場を肌で感じる貴重な体験となった。

森庄銘木の森本達郎さんの案内のもと、まずは吉野の森へ。山林に足を踏み入れると、すぐに吉野林業の特徴である密植・多間伐・長伐期という独特の施業体系の痕跡が目に入る。特に印象的だったのは、尾根を境に左右で山主が異なり、それぞれの森林管理の違いが一目瞭然であった点だ。手入れの行き届いた森と、そうでない森の対比は、適切な森林管理の重要性を視覚的に示していた。

伐採・搬出の現場に足を踏み入れ、急峻な地形における作業の困難さと、それを支える林業技術者の高度な技能を実感。選木の段階から既に「どのような用途に向くか」を見極める目利きの技のお話を伺い、一本一本の木材に対する真摯な姿勢が伝わってきた。これは数百年にわたる吉野林業の伝統を受け継ぐ「文化」であると感じた。



自社工場での銘木・家具材加工の工程見学では、山から切り出された原木が、磨きや木工の技術によって美しい銘木製品へと生まれ変わる過程を目の当たりにした。特に「磨き」の技術は職人技そのもので、木目の美しさを最大限に引き出す繊細な作業に参加者一同が見入っていた。

森庄銘木産業の取り組みで特筆すべきは、川上から川中までを一貫して手掛けることで、森林資源の価値を余すことなく活かし、地域の経済と文化に転換している点である。山林経営、伐採、選木、製材、加工という一連の流れを自社内で完結させることで、木材の品質管理を徹底し、それぞれの木が持つポテンシャルを最大化している。



3. 西井木材(製材所)

会社概要: 奈良県宇陀市に位置し、吉野桧・吉野杉の製材加工を一貫して行う製材所。少数精鋭の職人が長年培った技術を融合させ、木材の歩留まりと品質管理を徹底。伝統的な製材技術を守りながらも、資源の有効活用や環境配慮など、現代的な課題にも取り組む。川上(森林)と川下(建築)をつなぐ「川中」として、地域の木材産業を支える重要な役割を担っている。

内容: 製材所施設見学、吉野杉・吉野桧の製材工程実演

レポート:

森庄銘木産業での川上の現場体験に続き、木材流通の「川中」を担う西井木材を訪問。ここでは吉野杉・吉野桧の製材加工の現場を実際に見学させていただいた。

製材所に入ると、機械の音とともに木の香りが漂い、まさに木材が加工される現場の臨場感を体感。少数精鋭の職人たちが、原木の特性を見極めながら、用途に応じた製材を行う様子は、まさに熟練の技であった。一本一本の木材の癖や特性を読み取り、無駄なく製材していく工程は、長年の経験と知識の結晶。

川上から川下への流れの中で、製材所は木材の品質を決定づける重要な工程である。西井木材の現場を見学することで、原木がどのように建築材や家具材へと姿を変えていくのか、そのプロセスと技術を理解することができた。

森庄銘木産業の山林、そしてこの製材所と、川上から川中への流れをダイレクトに体感できたことは、木材利用の全体像を理解する上で非常に有意義であった。



4. 奈良県銘木協同組合(製品市場)及び桜井木材市場(原木市場)

会社概要:

桜井木材市場(原木市場)

日本有数の原木市場として知られ、定期的に原木の競り市が開催される。林業(川上)と製材・流通(川中)の接点として機能し、原木の選別基準や価格形成のプロセスが行われる場。原木が評価され、選ばれる現場を通じて、木材の価値がどのように決まっていくのかを学ぶことができる。

奈良県銘木協同組合(製品市場)

奈良県桜井市に位置する木材製品市場。天井板や化粧材、柵板など多彩な銘木製品が集まり、吉野材を中心に国内外の銘木を展示・取引する。木材の美しさをどのように引き出し、評価し、届ける。価値の創出と流通の工夫を体現する場として、木材産業における重要な役割を担っている。

内容:桜井木材市場施設見学(原木市場の様子、原木の選別基準と価格形成プロセスの説明)、奈良県銘木協同組合施設見学(銘木製品の展示場見学、天井板・化粧材・柵板などの銘木製品説明)

レポート:

視察の締めくくりとして訪れたのは、隣接する奈良県銘木協同組合と桜井木材市場。ここでは「川中から川下」へとつながる流通の現場を体感することができた。

桜井木材市場では、原木市場の現場を見学。午前中に訪れた森庄銘木産業の山林から切り出された原木が、ここで評価され、取引される。原木の選別基準や価格形成のプロセスについての説明を受け、林業と製材をつなぐ「市場」の重要性を再認識。

丸太には「価値」の評価が記入されていて、それを「やすい」と感じるのか「たかい」と感じるのか。それは、ここまで川上から川下まで一連の流れを見てきた参加者の評価は一定だったように思う。

奈良県銘木協同組合では、製品として加工された銘木の数々に圧倒された。天井板、化粧材、柵板など、一つひとつが芸術品のような美しさを持つ銘木製品が整然と展示されている。吉野材を中心に、国内外の様々な木材が集められ、その木目の美しさ、色合い、質感の多様性に参加者一同が「ほしい！」と切に思うほどの銘木揃いであった。

化粧板1枚が高級車と同じくらい、という説明にため息が漏れる一同。改めて実感したのは、「木材の価値」とは何かということである。同じ樹種であっても、木目の出方、色の深み、経年変化の予測など、様々な要素によって価値が大きく異なる。それらを見極め、適切に評価し、それを必要とする人々に手渡す。銘木市場は、そうした木材の価値創出と流通の要として機能していることを理解できた。

しかし、本当に「手渡されて」いるのだろうか。川下である参加者の多くが、木材利用をスムーズに行うために必要なコミュニケーションが必要であると実感したというコメントが印象的だった。



1日目のまとめ：

9月25日の視察は、本ツアーの最大の目的である「川上から川下に至る距離感」を縮める、極めて充実した一日となった。

午前中、まずコトクリエで都市部における木質化建築の可能性と効果を実感した後、奈良の山深い吉野林業地域へと移動。森庄銘木産業の山林では、密植・多間伐・長伐期という吉野林業の伝統的な施業体系を目の当たりにし、「川上」の現場における森林管理の重要性と困難さを肌で感じることができた。

続く西井木材では、山から切り出された原木が製材され、用途に応じた建築材や家具材へと加工される「川中」の工程を見学。持続可能な木材産業のあり方を示す好例であった。

そして一日の締めくくりとなった桜井木材市場と奈良県銘木協同組合では、原木が評価され取引される市場の仕組みと、製品化された銘木の美しさと価値を学んだ。森林→製材→市場→木材利用という一連の流れが、ここで完全につながった。

参加者からは「川上から川下まで、これほど短時間で体感できるとは思わなかった」「それぞれの工程で働く人々の情熱と技術に感銘を受けた」「木材の価値がどのように創出され、評価されていくのかが理解できた」といった声が多数聞かれた。

特に印象的だったのは、森庄銘木産業の森本達郎さんをはじめ、各視察先の方々が示して下さった木材と林業への深い愛情と誇りである。数百年の伝統を受け継ぎながら、現代の課題にも向き合う姿勢は、参加者全員にとって大きな学びとなった。

本ツアーの第一の目的である「奈良の川上から川下までを一日で体感する」ことは、まさにこの1日目で達成された。木材産業の全体像を理解し、それぞれの工程のつながりを実感できたことは、今後の木材利用推進や木造建築の企画において、必ずや活かされるものと確信する。

以上

アサイアサミ(ココホレジャパン)